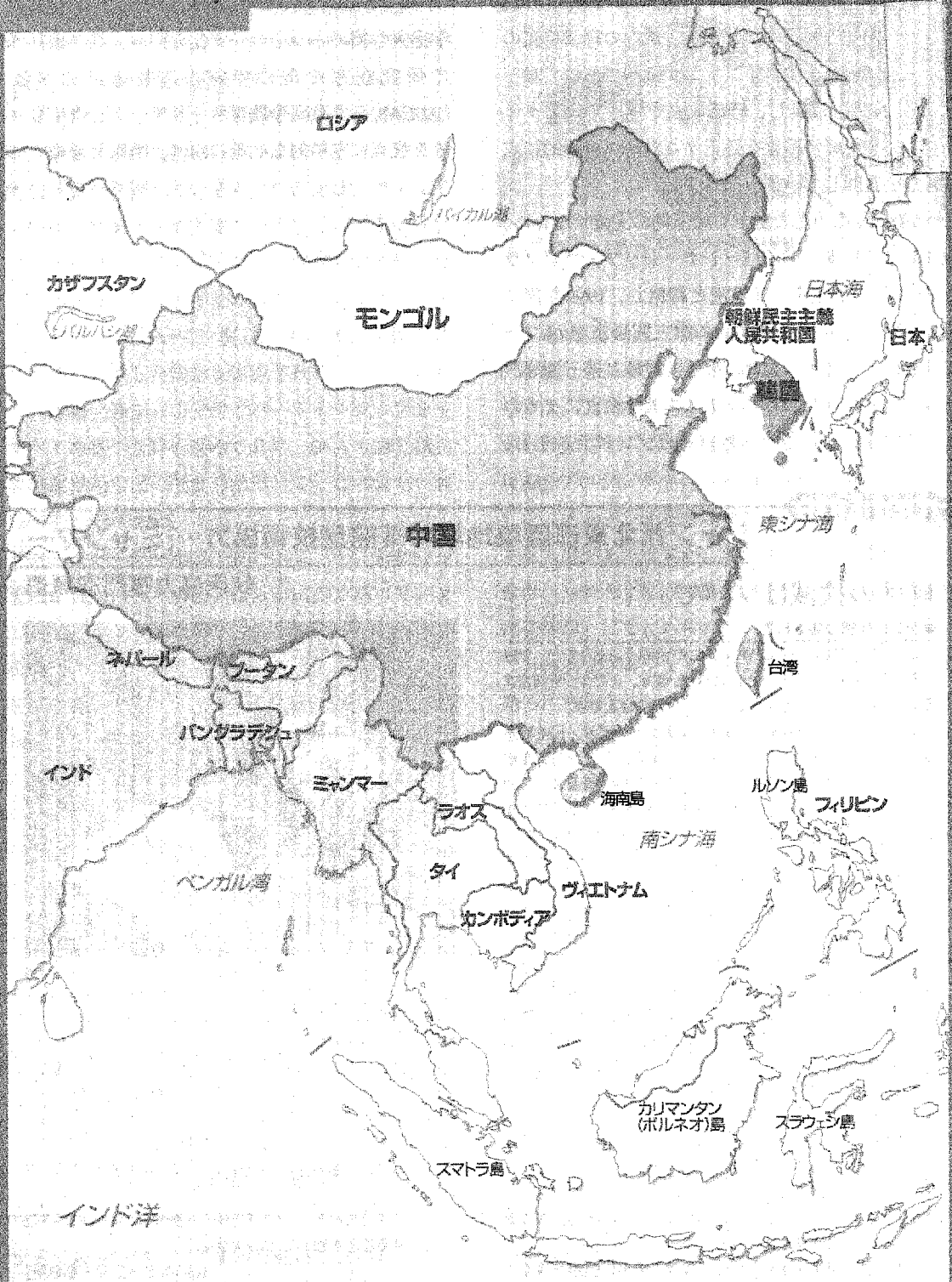


# 第3章

# East Asia

## 東アジア地域



# 開発の現況



モンゴルの気象災害を減らすために、2000年1月から始まった気象情報データベース構築のための協力の署名式

## 三者三様の開発状況

日本に最も近く、経済的にも深い関係をもつ東アジア地域には、中国、モンゴル、韓国と発展状況が異なる国々が含まれています。

中国は、過去20年間、「改革・開放」を掲げて市場経済化を推し進めた結果、めざましい経済発展を遂げましたが、一方、沿海部と内陸部との地域間格差や環境問題など、開発の負の側面の解消が課題となっています。

モンゴルは、1990年以降、市場経済への移行に努めてきましたが、安定的な経済成長を可能にするマクロ経済の運営と、産業の振興が大きな課題となっています。

韓国は、順調な経済発展を遂げ、2000年1月にはDACリスト<sup>\*</sup>のパートIからパートIIに移行し、援助を受ける側から援助をする側になりました。2000年

からわが国は、韓国と共同で開発途上国からの研修生を受け入れる共同研修を開始、これを足がかりとして「日韓パートナーシップ」の構築をめざしていきます。

## 環境汚染が深刻化する中国

改革開放以降めざましい経済発展を遂げてきた中国は、アジア経済危機以来、景気の先行きに不透明感が出てきたものの、公共投資などの財政発動による景気テコ入れ策の結果、7%もの成長を維持しています。その半面、貧困・地域間格差問題が顕在化し、社会開発分野での取り組みの遅れや、環境悪化などの問題が顕著となっています。

中国政府は、さまざまな施策により内陸部の貧困問題解決に取り組み、一定の成果を上げていますが、引き続き対策を実施していくことが必要です。また、

## 東アジアに対する JICA 援助の基本方針

中国に対しては、以下の4分野に重点を置いて協力を進めています。

### ① 貧困・地域間格差の是正

予防・衛生を中心とする初級医療整備、教育基盤整備、貧困地域の基礎生産条件改善

### ② 環境保全

環境政策策定への支援、大気汚染対策、水質汚濁対策とともに、森林保全・洪水対策、都市環境整備

### ③ 農業開発・食糧供給

生産技術の向上・普及、流通整備、農業の産業化

### ④ 制度化された市場経済の構築

中小企業支援、金融・社会保障をはじめとする市場経済化の進展に伴う各種制度支援

また、モンゴルに対しては、以下の5分野に重点を置いて協力を進めています。

### ① 産業振興のための経済基盤整備

流通、エネルギー供給および通信関係基盤整備

### ② 市場経済移行のための知的支援・人材育成

さらなる市場経済体制を支える体制整備や人材育成

### ③ 牧畜業・農業振興

牧畜業分野では、過放牧と家畜の質の低下が問題になっているため、検疫体制の強化や畜産物品質向上など、量から質への転換を図るための人材育成

### ④ 基礎生活分野支援

体制移行後、予算が大幅に削減された教育および医療分野や都市インフラ（地方においては水供給）における支援

### ⑤ 自然資源の管理

自然資源の現状を把握した上での適正な管理と保護。自然災害の予防と緊急援助体制の整備

「西部大開発」政策など、開発の軸足は内陸部重視の方向に向いており、地域間格差の是正が模索されています。他方、市場経済化が進むなか、1998年から、国有企業改革、行政改革、金融改革の3大改革が実施され、2000年はその最終年度にあたっていますが、急速な社会の変動に伴う制度整備も急務となっています。

食糧問題については、現在は年間5億トン近い食糧生産を続けており、小康状態にはありますが、適地適作をはじめとする地域別の生産構造の調整が必要となっています。また、都市を中心とした環境汚染が深刻化しており、中国国内への悪影響ばかりでなく、酸性雨などが国を含む周辺国への影響も懸念されています。さらに、1998年の長江（揚子江）の大洪水でもわかるように、中・上流域における森林保護や造林も緊急の課題となっています。

## 機材や施設の老朽化が進むモンゴル

ソ連邦の崩壊とともに、モンゴルもそれまでの社会主義体制から市場経済的体制へと移行してきました。これに伴う経済的混乱は、モンゴル政府による経済安定化政策やIMF（国際通貨基金）の指導、諸外国からの経済援助により一応の収束を見ました。しかし、資金不足のため機材や施設の老朽化が進んでおり、その修復や更新が課題となっています。また、市場経済体制に対応するための人材育成も急務です。さらに、貧富の差の拡大や、教育・医療部門の水準低下も問題となっています。

### Front Line

## 気象観測施設整備計画…モンゴル

### 異常気象の解明に最新のレーダー

#### ◆気象災害との限りなき戦い

モンゴルの広い空の下にはいろいろな気候があります。

春は、黄砂を含んだ強風。まれに土砂降りの雨により雪解け洪水が起こり、橋や線路が流されることがあります。夏は高温と乾燥。秋には降雪（こうひょう）。冬は極寒と風雪。人々の生活が、自然の営みに直接影響されるモンゴルでは、気候の変動は、人々の死活にかかわる問題となります。

その例として、家畜が大量に死んだ1999年から2000年にかけての「ソド」の被害は記憶に新しいところです。「ソド」は、日本では「雪害」と訳されていますが、極低温による被害も含まれます。被害が拡大した原因としては、夏期の早魃や経験の浅い牧畜民の越冬準備の不足も指摘されています。

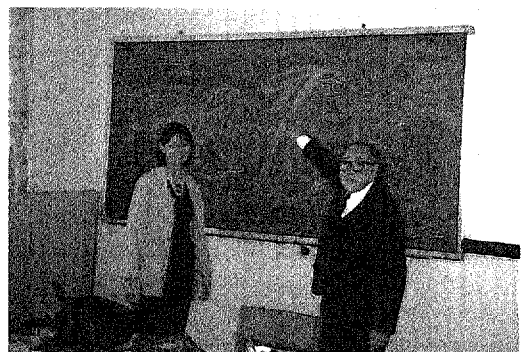
自然と共存し、時には闘わなければならないモンゴルの人々。たとえば、小麦の生育期には、農民がお金を出し合って、気象庁気象変更センターに依頼して、畑を襲う雪雲めがけて降雪抑制の高射砲を撃ってもらいます。効果の判定は足の裏で地面を踏んで確認します。実際的な工夫と官民の共同作業によって雪害を防いでいるのです。

#### ◆新レーダーで謎の気象を解明

1999年12月、日本の無償資金協力により、ウランバートル国際空港を見下ろす山頂にドップラー気象レーダーが据え付けられました。新レーダーは、長い間の謎だったモンゴルの短時間集中型豪雨を次々とらえました。

JICA 専門家の指導のもとに、予報官とレーダー気象官がチームを組んで気象解析を進め、作業仮説を立ててはモンゴ

### 無償資金協力・技術協力専門家派遣



学生と討論しながら研究を進める

ル国立大学気象学科のゼミに持ち込み、討論しながら仮説を絞り込んでいきます。

#### ◆気象データベースの構築

2000年1月からは、新たに認められたJICA 予算の研究支援費を活用し、過去60年間に蓄積された気象情報のデータベース構築の支援を開始しました。

気象記録とそれに伴う気象災害の記録を即座に取り出せるようにしようという取り組みです。

こうした努力と新しい試みが、モンゴルの気象の科学的な解明を促進し、災害をもたらす気象現象の予測を可能とさせ、気象災害による被害を最小限にすることが期待されています。

(JICA モンゴル事務所)

# JICA 事業の 重点課題と 取り組み

## 企業改革に日本の経験を生かす

中国は急速な経済成長を続けており、この発展に伴いさまざまな課題に直面しています。12億7000万という世界最大の人口を有し、年に1200万人の増加を続ける中国が直接・間接にもたらす問題は、アジアにとどまらず地球全体に影響をもたらすグローバル・イシューといえます。とりわけ、貧困・地域間格差問題、深刻化する環境問題、農業開発と食糧供給問題、市場経済化に伴うさまざまな問題は、早急に対処すべき課題であり、対中国援助における最重



子どもたちの予防接種推進のために供与され、引き渡し式後にウランバートルから各地に出発するジープ（モンゴル）

点課題です。

貧困・地域間格差問題については、特に内陸部の貧困地域に対する保健医療サービスとそのための人材育成、初等教育基盤整備、貧困農村支援などの協力が急がれています。

環境問題への取り組みとしては、中国全土の環境対策に直接関与することは不可能であることから、政策対話を通じて、中国側のいっそうの自助努力を促すとともに、日中友好環境保全センターなどを中心とした協力や、日中環境開発モデル都市構想への参画を通じ、環境関連技術・施設の全国的な普及を

## Front Line

## 果樹栽培・病害虫駆除… 中国

### 真っ赤に熟したリンゴが実る日を夢見て

#### ◆自治体と連携した研修員受入

中国の江蘇省と石川県は、友好交流事業として、1986年から農業技術研修生の受入れを行い、大きな成果を上げています。北陸支部では、こうした交流事業を支援するため、1999年度に石川県と連携して、果樹栽培に不可欠な病害虫の防除や土壌の改良を目的とした地方枠研修コースを立ち上げました。

#### ◆虫食いリンゴから真っ赤なリンゴへ

中国の果樹栽培は、従来、「質より量」を重視していたので、日本のリンゴのように、色合いや糖度、大きさを考えた栽培は行われていませんでした。ところが、1980年代に始まった改革開放路線による驚異的な経済成長の結果、中国でも質のよいリンゴを求める消費者が増えてきました。江蘇省は、いちちはやく「ふじ」リンゴを日本から導入、栽培していたので、成功を収めることができましたが、剪定技術や土壌の改良、病害虫対策は、日本に比べるとまだまだ課題が多く、日本からの技術援助に大きな期待を寄せています。江蘇省は、中国一豊かな上海市に隣接しているので、品質のよい果樹（リンゴ、ナシなど）の安定的な生産が実現すれば、果樹農家の自立を大きく後押しすることができます。

### 技術研修員受入



剪定技術を学ぶ中国人研修員たち

#### ◆さらなる充実した研修をめざして

1999年度は、地方枠研修員として3人を受け入れ、石川県農業総合研究センターできめ細かい指導のもと、充実した研修を行いました。2000年度も3人の研修員受入れに加え、同センターから2人の専門家を派遣も予定されています。石川県との連携をさらに密にして、実りある研修にしていきたいと思えます。（JICA北陸支部）

側面的に支援していきます。

食糧問題への取り組みとしては、従来協力してきた灌漑・排水、農業の機械化など農業基盤整備の強化を継続していきます。また、農産物流通の改善、植物遺伝資源、種子生産、適正品種選定などの試験・研究への協力は、食糧増産につながる有効な手段です。さらに、農業技術の普及教育、農民組織整備などによる増産および農民所得の向上を図っていきます。

市場経済化支援については、日本での企業経営の具体的な経験を伝えることに加え、企業改革で整理される従業員を救済する社会保障のほか、住宅、年金、養老保険、失業保険、医療保険などの制度を充実していくことも必要です。中小企業の育成・支援は、国有企業改革に伴う失業者や貧困層の受け皿としても重要であり、中小企業育成にわが国の経験を紹介するとともに、銀行などの金融関連の人材育成もめざしていきます。

## 市場経済移行に必要な知的支援を実施

---

モンゴルに対しては、約70年にわたり社会主義体制が続いたことから、市場経済体制への移行に必要な人材を育成するため、経済政策、法整備、行政改革に対する知的支援を実施しています。広大な国土は、これまで遊牧以外では有効活用されていませんでしたが、これらを適正に保護・管理し、観光資源としても活用できるよう、協力を進めていきます。

GDPの3割以上を占める農牧畜業については、基幹産業としてのさらなる発展を進めるべく、動物検疫体制・技術の強化、畜産物流通加工振興への協力を進めていく予定です。

教育、医療などの基礎生活分野においては、体制の変化により急激に状態が悪化しています。このため、病院や学校施設の改修に協力するとともに、人材育成も進めていきます。また、都市の生活インフラの整備、地方都市での水供給の改善に対する協力も行っていく予定です。